

知事選で深く知った新しいこと

JJ1SXA/池

代議士という呼称

本年(2024年)の東京都知事選挙の立候補者数に圧倒されました、売名だけが目的らしい人も見受けられます、現行公選法では、選挙を利用した売名行為を防ぐ目的で供託金制度が設けられている、知事選の場合は1候補者につき300万円をあらかじめ供託し、得票が有効投票数の1割未満であれば供託金は没収され、都に納められる。(現在の状況では、300万円は安過ぎるのか?)

ユーチューブで蓮舫候補者のことを、元代議士と紹介していたのを、間違いだよと指摘され、訂正し謝罪していた。(彼女は元参院議員、代議士は衆院議員のこと)

参議院は戦前、貴族院で、華族や元官僚、学識経験者、高額納税者などから選出された非民選議員の院であり、一般国民の代表は衆議院が担った。

衆議院議員が「国民に代わって議事に携わる」ことから、敬意と親しみを込めて「代議士」と呼ばれ、その名残が現在でも続いているとのこと。

日本国憲法では、全ての国会議員が「全国民を代表」する民選議員となったので、本来の語源に立ち返れば衆参問わず「代議士」と呼んでもいいはずですが。

しかし、衆議院だけに解散があることや、参議院よりも任期が短いことから、国民の意思がより反映されていると考えられています。

このため、予算先議権や内閣不信任決議が認められるなど「衆議院の優越」が与えられており、現在でも「国民により近い立場」であることから、「代議士」の敬称も衆議院議員だけに限定されているのではないかと考えられるそうです。

他力本願という言葉

6月20日に告示された鹿児島県知事選で、県選挙管理委員会が投票を呼びかけるために作成したポスターの一部が、急きょ差し替えられた、「他力本願」という言葉をめぐり、仏教関係者から抗議を受けたためという。

ポスターでは、「犬知事」や「おやじギャグ知事」といった架空の知事を並べ、「知事って、誰でもいい?…わけない!!」と、投票を呼びかけている。

その中で「鹿児島がもっと良くなりますように!!」と手を合わせる人物を「他力本願知事・ほかだよりひこ」として登場させていた。

県選管によると、19日に地元の仏教関係者から、「他力本願とは、仏さま(阿弥陀仏)の生きとし生けるものを救わずにはおれないという強い願いのはたらきという意味で、ポスターでの使い方は適当でない」と抗議があった。

これを踏まえ、県選管は同日、「他力本願知事」を「人まかせ知事」に訂正すると決めた。この言葉を含むポスター約160枚を刷り直し、同じ内容で用意していた動画の文言を差し替えた、担当者は「他力本願は一般的に、「他人まかせにすること」という意味で使われることが多く、今回もそのつもりだった」と釈明。

言葉は難しい、代議士は衆議院議員のこととは知っていたが、深くは知らなかった、他力本願も改めて深く知った、浅学を思い知らされた。hi (2024年6月記)